

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年1月20日

協議会名：	岡崎市交通政策会議
-------	-----------

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持改善費国庫補助金
----------	------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	【基本理念】人、まち、環境きらり。岡崎の交通まちづくり 【基本目標】 1 人にやさしく安全安心な交通の実現 2 観光・交流を促進し、まちの魅力を高める交通の実現 3 円滑で快適な交通の実現 4 環境にやさしい交通の実現
-----------------------------	---

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年1月20日

協議会名：岡崎市交通政策会議

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
名鉄バス㈱ 額田支所市民病院線	額田支所前～市民病院	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、公共交通マップの作製や市内イベントにおいて沿線地域とバス路線の紹介を行い、利用促進に努めた。 また、地域住民へ他路線からの乗継情報の周知を行った。	A	事業は計画通り実施された。	B	平成28年度(H28.4～H29.3)の目標利用者数8,067人に対し、利用者数見込みは7,448人であり、目標を達成できない見込みである。 地域に必要な生活交通を旨し、利用者現状維持を目標として地域で更なる利用促進に取り組んできたが、沿線地域の人口減少も影響し、目標達成には至らなかったと考える。 なお、H27.10～H28.9の利用者数は7,822人である。	ICカードの利用や接続する幹線系統との乗継割引制度等を住民に周知し、地域協議会とともに利用促進を図る。
豊栄交通㈱ 下山地区線A	桃ケ久保～岡崎げんき館前	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、地域協議会が主体となり、下山地区線を活用して市街地での老人クラブの活動の実施や、高校生がバスから自転車に乗り換えて通学できるように整備したバス停付近の駐輪場を沿線住民や他地区へ周知を行った。 また、公共交通マップの作製や市内イベントにおいて沿線地域とバス路線の紹介を行い、利用促進に努めた。	A	事業は計画通り実施された。	A	平成28年度(H28.4～H29.3)の目標利用者数3,806人に対し、利用者数見込みは5,341人であり、目標を達成できる見込みである。 なお、H27.10～H28.9の利用者数は4,979人である。	地域協議会を中心として地域住民と運行内容の協議・見直しを行い、利用実態に合わせた運行ダイヤの変更等、平成29年10月からの計画に地域ニーズを反映させ、更なる利用者利便の向上を図る。
豊栄交通㈱ 下山地区線B	北部診療所～岡崎げんき館前						

㈱西三交通 形埜地区線 (南大須・鍛埜コース)	北部診療所～須刈橋～北部診療所	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、高齢者定期券購入費の1割を地域協議会が助成する取組を継続して行い、利用促進を図った。 また、公共交通マップの作製や市内イベントにおいて沿線地域とバス路線の紹介を行い、利用促進に努めた。	A	台風の影響でコース上に土砂崩れの危険性があり、乗客の安全を考慮し、2日運休となったがその他は計画通り実施された。	B	平成28年度(H28.4～H29.3)の目標利用者数989人に対し、利用者数見込みは853人であり、目標を達成できない見込みである。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で更なる利用促進に取り組んできたが、沿線地域の人口減少も影響し、目標達成には至らなかったと考える。 なお、H27.10～H28.9の利用者数は811人である。	目標利用者には達しない見込みであるが、前年度利用者数と比較すると増加する見込みであり、効果的な利用促進等を行うことができた。 地域協議会を中心として地域住民と運行内容の協議・見直しを行い、利用実態に合わせた運行ダイヤの変更等、平成29年10月からの計画に地域ニーズを反映させ、更なる利用者利便の向上を図る。
㈱西三交通 形埜地区線 (切山・小久田コース)	上一色平～北部診療所						
㈱西三交通 形埜地区線 (毛呂・井沢コースA)	うつぎ～北部診療所～本郷～北部診療所						
㈱西三交通 形埜地区線 (毛呂・井沢コースB)	北部診療所～本郷～北部診療所～うつぎ～北部診療所						
岡東運輸㈱ 宮崎地区線	宮崎小学校～ナカンバ電工前～高雲寺～木下公民館～千万町上～宮崎学区市民ホーム前	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、接続する幹線系統との乗継利用を呼びかけ、幹線系統も含めた利用促進を行った。 さらに、公共交通マップの作製や市内イベントにおいて沿線地域とバス路線の紹介を行い、利用促進に努めた。	A	事業は計画通り実施された。	A	平成28年度(H28.4～H29.3)の目標利用者数446人に対し、利用者数見込みは482人であり、目標を達成できる見込みである。 なお、H27.10～H28.9の利用者数は497人である。	地域協議会を中心として地域住民と運行内容の協議・見直しを行い、利用実態に合わせた運行ダイヤの変更等、平成29年10月からの計画に地域ニーズを反映させ、更なる利用者利便の向上を図る。
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (夏山・鳥川コースA)	額田支所前～平針～寺野～市道～ハズノモト～星野医院						
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (夏山・鳥川コースB)	星野医院～寺野～平針～額田支所前～星野医院～ハズノモト～市道	前回の第三者評価委員会において、利用者が伸び悩む中山間部における利用促進と路線網・運行形態再検討の推進を希望される意見をいただき、今年度の取り組みとして、地域協議会が主体となり、地域で回数券の購入を行った。 また、沿線地域からの要望を受け、新たな利用を見込み、ルート上のバス停がない地域へバス停を新設した。 さらに、公共交通マップの作製や市内イベントにおいて沿線地域とバス路線の紹介を行い、利用促進に努めた。	A	事業は計画通り実施された。	B	平成28年度(H28.4～H29.3)の目標利用者数500人に対し、利用者数見込みは464人であり、目標を達成できない見込みである。 地域に必要な生活交通を目指し、利用者現状維持を目標として地域で更なる利用促進に取り組んできたが、沿線地域の人口減少も影響し、目標達成には至らなかったと考える。 なお、H27.10～H28.9の利用者数は434人である。	目標利用者には達しない見込みであるが、前年度利用者数と比較すると増加する見込みであり、効果的な利用促進等を行うことができた。 また、地域協議会を中心として地域住民と運行内容の協議・見直しを行い、利用実態に合わせた運行ダイヤの変更等、平成29年10月からの計画に地域ニーズを反映させ、更なる利用者利便の向上を図る。
岡東運輸㈱ 豊富・夏山地区線 (鳥川コース)	市道～ハズノモト～額田支所前～星野医院						